

令和5年第4回栗原市議会定例会 一般質問【個人質問】 通告表

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1	12番 阿部 貞光	1 令和6年産作付けに向け万全か	<p>1 JA新みやぎ農業協同組合では、令和6年播種用 水稻種子の注文の取りまとめが始まるなど、次年度の作付けへの準備も進められている。</p> <p>しかし、国の飼料用米への助成単価の見直しや、輸出用米の更なる推進のための品種確定等、転作を進める方向性がまだ決定していないと思われる。こうした時期でもあり次の点を伺う。</p> <p>(1) 輸出用米はコロナウイルス感染症により低迷していたと理解する。</p> <p>これまでの答弁でも影響により伸び悩んでいたとされているが、JAみやぎ登米では、令和2年度に当初目標の2,000トンの輸出を達成し、令和7年度の目標としていた輸出量3,000トンも令和3年度に達成している。</p> <p>また、当初ひとめぼれで対応していたが、事業者からの要望を受け、つきあかりでの輸出も行われ、令和4年度は、ひとめぼれ2,087トン、つきあかり919トンの合計で3,006トン、米が輸出されている。本市の輸出との違いをどう捉えているか伺う。</p> <p>(2) 米の主産地では、転作の推進や農家の所得確保に向け、多収品種での輸出用米取り組みが活発化している。にじのきらめき・ゆみあずさは茨城県や新潟県、ななつぼしで輸出を伸ばしてきた北海道では、空育195号の栽培試験が行われている。令和6年作付けに向けた本市の品種はどうか伺う。</p> <p>(3) 宮城県では、農林水産物・食品輸出促進戦略を策定し、輸出を進めている。また、農林水産物及び加工品の海外への輸出の促進を図ることを目的とする。宮城県食品輸出促進協議会を立ち上げられ、大崎市・登米市が正会員として加盟しているが、栗原市が加盟していないのはなぜか伺う。</p> <p>(4) 飼料用米は主食用米品種での対応となれば、多収品種でも段階的に水田活用の直接支払交付金も減らされる事になる。</p> <p>改めて、令和6年産品種はどうか伺う。</p> <p>(5) 宮城県では、東北189号(げんきまる)と多収で大粒のクサユタカを交配した東北211号を飼料用米として平成26年4月知事特認品種として認定されている。</p> <p>現時点までの作付け状況は、他県のように主食用米で作付けできる品種での知事特認品種にできる品種は改良されていないか伺う。</p> <p>(6) 6年産作付けに向けた輸出用米・飼料用米等の品種を確定し、速やかに農家に周知を図るべきと考えるがどうか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 道路の安全確保は万全か	<p>1 道路法第 30 条及び道路構造令第 12 条では、自動車や歩行者の安全な通行を確保するため車道の上空 4.5m、歩道等の上空 2.5m の範囲内に電柱・信号機・樹木等の障害となるような物を置いてはならない空間と定められている。</p> <p>そこで次の点を伺う。</p> <p>(1) 支障木や危険木の倒壊等により、損害をあたえた件数と賠償額を伺う。</p> <p>(2) 区長や市民からの情報提供状況と対応について伺う。</p> <p>(3) 車両や通行者の安全確保のためには、道路管理者として適切なパトロールによる点検が必要であるが現状はどうか。</p> <p>また、市道は道路構造令第 12 条の基準を満たしているか伺う。</p> <p>(4) 令和 5 年 4 月 1 日民法が改正されているが、どう理解しているか伺う。</p> <p>(5) 市道や生活道路には、市の所有する法面や隣接する民有地があるが、これらの土地の支障木、危険木の倒木や落下が原因で事故等が発生した場合の責任者を伺う。</p>
		3 教職員の働き方改革は進んでいるか	<p>1 栗原市教育委員会では、教育環境の充実により教員が授業改善に取り組むなど、子どもと向き合う時間の確保や教員の負担軽減・学校の業務改善に資する取り組みを実施してきているが、教員の長時間勤務の抜本的な解消には至っていないとし、令和元年 12 月、学校における働き方改革、取り組み方針が策定されている。そこで次の点について伺う。</p> <p>(1) 方針策定にあたり、学校が抱える課題はより複雑化・困難化しており、学校に求められる役割が肥大化しつつある。それに伴う教員の多忙化や勤務時間の長時間化等が課題とされているが、具体的にどういった内容か伺う。</p> <p>(2) 標準授業時数は、つめこみ教育・ゆとり教育・令和の日本型学校教育等・文部科学省が目指す方向により大きく変化している。教育現場はその都度対応せざるを得ない現状にあるが、標準授業時数の変化と年間授業数はどうか伺う。</p> <p>また、つめこみ、ゆとり令和型教育を受けた児童・生徒の学力・生きる力をどう捉えているか。</p> <p>(3) 学校における働き方改革取り組み方針は、令和 2 年度から令和 5 年度まで 4 年間の計画とされている。取り組みの柱として 4 項目が掲げられ、取り組み内容も示されているが、現状の進捗状況と達成具合を伺う。</p> <p>(4) 学校における教職員の働き方改革の推進に向け、必要な支援を実施するとしているが、どのような支援が行われたか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(5) 検証と見直しはどのように行われたか伺う。</p> <p>(6) 文部科学省が示した働き方改革には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には学校以外が担うべき業務 ・学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務 ・教師の業務だが、負担軽減が可能な業務 <p>が示されているが、市の方針策定にどう反映され、進められているか伺う。</p> <p>(7) 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律が、令和元年 12 月に公布されているが改正内容と教職員の働き方はどう変化したか伺う。</p> <p>また、令和 2 年 7 月 17 日には、公立の義務教育諸学校等の教職員の給与等に関する特別措置法施行規則の制定及び「公立学校の教職員の業務量の適切な管理その他教育職員のサービスを監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」の改正等についてが出ているが、対応はどうか。</p> <p>(8) 令和 3 年 8 月 23 日学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行についてとする通知が出されている。</p> <p>学校において教員と連携協働しながら役割を果たす支援スタッフとして医療的ケア看護職員・情報通信技術支援員・特別支援教育支援員及び教員業務支援員について新たにその名称及び職務内容を規定するものとなっている。</p> <p>配置基準と配置状況、予算措置はどうか伺う。</p> <p>(9) 教育委員会と学校（校長）との関係とはどういったものか伺う。</p>
2	19 番 菅原麻紀	1 遊休農地、荒廃農地の活用は	<p>1 長野県安曇野市と山梨県北杜市は、中山間に位置し荒廃農地の再生が課題とされている。安曇野市では多くの専門家からの知見と国の補助金を活用し、農業委員のリーダーシップのもとで再生を進めている。北杜市では、農業と食品業界が連携しフードバレープロジェクトという協議会を設立した。このプロジェクトは、会員同士の勉強会やコミュニティー創設、異業種を越えた連携を通じて、イベントや販売体制を強化している。</p> <p>農地を整備し休耕地を集約し、市や農業委員会、JAなどと連携し、土地を借りたい企業や例えば学校給食の食材など地産地消を促進する企業を誘致して農地賃貸するのもいいアイデアだと思う。そこで伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 遊休農地の面積は、その割合は。 (2) この 10 年間で荒廃農地の解消した面積は。 (3) 解消した後、その田畑は継続して作付けしているのか。 (4) 継続していくための仕組み作りや、モチベーションをあげる努力をしているのか。 (5) 農業誘致は考えているのか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 若年層に対する議員や議会政治に関する教育について	1 今年6月、足利市の市議会が初めて市内の学校で市議会の職場体験事業を行った。この取り組みは、学校から提案されたもので、中学生2人が議会の概要や一般質問の学びを通じて議員からの指導を受けながら調査し、議場で答弁を受けるといったものであった。また、こちらの市議会では平成29年度から市内の学校に出向いて市議会の仕組みや役割を説明する出張授業も行っている。これにより生徒たちは現場の声を聞くと同時に自分たちの意見を議会に届けられる経験をし、政治に興味をもつ機会になっている。このような活動が栗原市でも実現可能か伺う。
		3 病院の外来混雑について	1 若柳では個人病院の佐々木内科医院が閉院したことにより患者さんは他の近隣の病院に転院し、特に若柳病院の混雑が増加したと聞く。佐々木内科医院は5月末に閉院したがその後の患者数の変化を栗原中央、栗駒、若柳3病院について伺う。 また、働き方改革ということで診察の途中で先生の休憩が入って待つ時間が長くなったとも聞く。先生方にも休憩は必要だと感じるが、午前で診療が終わるので患者さんが集中することが懸念される。午前午後の診療を行うことは出来ないか。 入院患者は栗原中央に特化し診療の方は栗駒、若柳、個人病院というように役割分担することは検討しているか。
		4 女性消防団員の役割	1 私が消防団に入団してからしばらく経つが、団員の確保が難しく、火事現場の対応にも不安を感じている。女性団員が抱えている問題や悩みを班長、部長、分団長に共有することでより良い活動ができ、女性団員としての役割、求めるものを明確にすると活動しやすいと感じる。 先輩方の良い活動を、地区ではなく栗原市全体で共有し、統一的な活動を行うことは可能か。さらに、消防団員募集や防災意識向上のために幼稚園、小学校、中学校に広報活動を行うことは可能か。消防団活動をより具体的に紹介し防災活動の魅力を伝えることも重要だと思う。この考えに対する市長の考えを伺う。
3	16番 佐藤千昭	1 国道398の改良整備等について	1 国道398号は石巻市を起点に南三陸町、登米市、栗原市、そして秋田県の湯沢市、由利本荘市までの284.1kmの路線で、昭和57年国道に昇格している。 以来、市長はじめ関係者の要望活動もあり、未改良区間の整備が着実に進められてきた。また、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震で被災した花山地区の松の原、小川原、温湯、湯浜の災害復旧工事も終了して、平成22年全線で一般通行をしている。これまで以上に、地域内交通は勿論のこと、太平洋と日本海を結ぶ路線として、産業・経済・文化・観光の発展に大きな役割を果たしていくことと思っている。以下、今後の整備要望について伺う。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 浅布の約 1 kmの狭隘な路線の拡幅についての要望を伺う。</p> <p>(2) 湯浜の工事は終了したのか。</p> <p>(3) 花山ダム周辺は、道路の上層木で道路に日が当たらない。雪も解けず冬は危険、要望すべき。</p> <p>(4) その他、除雪等について市ではどんな要望をしているのか。</p>
		2 青空大使派遣事業や海外研修について	<p>1 これまで栗原市では、中学生の青空大使派遣事業や、高校生オーロラ大使派遣事業で、それぞれ、オーストラリアやスウェーデンに、中学生や高校生を派遣して、将来を担う国際的視野を持った人材育成につとめてきた。</p> <p>この研修に参加した団員や保護者の記録によると、大きな成果があったと報告されている。この事業の継続に向けて以下の点について伺う。</p> <p>(1) これまでの応募状況について伺う。</p> <p>(2) 男性の団員が少ないと思うが、希望者（応募者）が少ないのか。</p> <p>(3) 海外のなかでオーストラリア、スウェーデンを研修先に選んでいるのはなぜか。</p> <p>(4) 今後研修先について変更する考えはないか。</p> <p>(5) 派遣のみでなく、受け入れも検討すべきと思うがどうか。</p> <p>(6) 研修は事後活動が重要と言われる。団員の研修後の活動についてどんな調査をしているか。</p> <p>(7) 市民の国際交流、海外研修について、市長の考えがあれば伺っておきたい。</p>
		3 みやぎ結婚支援センター「みやマリ！」について	<p>1 宮城県では、結婚を希望する独身の男女を支援するためのAIを活用したマッチングシステムを導入した「みやぎ結婚支援センター『みやマリ!』」が開設されている。</p> <p>センターは結婚したいけど、出会いがない方で、本気で結婚したい方向けの婚活のため、会員は登録制で理想の相手と出会える。秘密厳守、万全のセキュリティ対策、プロによるサポート、自治体やセンター主催のイベントも開催されている。成婚者が非常に多い等である。</p> <p>(1) 市内の独身男女の実態をどのように把握しているか。</p> <p>(2) 結婚支援センターの市内登録者はどうなっているのか。</p> <p>(3) この事業について、市の負担はどうなっているのか。</p> <p>(4) この事業による市内成婚者はいるのか。</p> <p>(5) 婚活事業について市長の見解を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
4	11 番 相 馬 勝 義	1 萩野診療所のその後の対策	<p>1 市は診療所の今後について話し合いをされ、協議を重ね結果的に現在の場所での診療を継続していきたいとの考えを示された事、誠に地域医療における原点と考える。</p> <p>また、多方面で活用されているX線検査装置だが、部屋の温度、湿度、正しい定期点検などにより、その機械の寿命以外に長期的な性能の維持などの効果に繋がると確信する。そこで再度質問する。</p> <p>(1) 市長は選挙前に、萩野地区において、話し合われたと聞いている。萩野診療所のその後は、雨漏りや床下の落差により、危険な状況と地域住民からの切実な声である。施設の修繕、大切な機器管理のうえからも市長の思いを伺う。</p>
		2 畜産における飼料高騰について	<p>1 先般、第 18 回栗原市の畜産共進会に出席させていただいた。出品された方々の真剣な、自信に満ちた堂々たる姿を見て、圧倒される思いであった。また、飼い主が手塩にかけて育てられた栗原和牛も優劣つけがたく、参加者皆さんの熱い想いを強く感じてきた次第である。そのような中での畜産農家の悲痛な声を聞き、この会の会長である市長に伺う。</p> <p>(1) 現実的には全てのものが高騰している今、何を行うにも大変な時である。市としてはたびたび支援を行っているが、飼料の高騰に頭を抱えている現状の中、どのような支援を考えているか伺う。</p>
		3 若者たちの結婚対策について	<p>1 少子化問題の解決には、自治体の出会いの場の提供が結婚に結びつくと考えて取組みを進めてはいるものの、なかなか成果が表れない。そのような状況の中でインターネットでの出会いという新しい取り組みが生まれてきていることにも興味は向けられる。そこで、市長としての考えを伺う。</p> <p>(1) 従来通りの婚活の取組みを行っていく中で、それに加えてネットの安心・安全な活用の支援など、前向きな活動の考えはないのか。</p> <p>(2) ここ数年コロナ禍にあり、20 歳を祝う会はじめ、様々な活動が縮小されたり、開催されなかったりしていた中で、コロナも 5 類に移行されたのを受けて、同級生同士や若者たちの集いの場の提供や様々な支援策を考えてみてはどうか。</p>
		4 地域づくりに若者たちの声を	<p>1 若者が市内に定住し、将来の「くりはら」を担う立場になってほしいと日々考えている。</p> <p>(1) 全国から、このくりはらに来て勉学にいそんでいる能開大の優秀な生徒さん方と、市内の若い企業人や市職員の若手が地域づくりについて自由にディスカッションできるような場を設けて、その意見を市政に反映できるようなことはできないか。そうすることによって、若者が大いに社会参加ができ、魅力的な町づくりができ、少なからずこの栗原で頑張ろうと思う若者が増えてくると思う。市長としての考えを伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		5 志波姫幼稚園・保育所専用駐車場整備について	<p>1 現在の志波姫幼保施設は、従来の敷地内に老朽化した保育所を合築し平成 28 年度から新たな施設として供用開始された。幼稚園と保育所を合築することにより、幼稚園敷地東側の駐車場の一部を活用し、敷地を広げて施設が建築され、広くなかった駐車場がさらに狭くなっている。幼稚園に通園する園児の保護者による送迎は、小学校南側の駐車場から幼保施設の敷地まで、通過する車両に注意を凝らし、登降園の時間帯には列をつくって送迎をしている状況である。駐車場から幼保施設までの道のりを考えると、危険極まりない状況にさらされていると感じている。そこで、市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 要望書では、園児の安全確保が、一番重要視すべきことであったが、若柳小学校での軽トラック侵入事件を受けて、現状の幼稚園児の送迎の状況をどのように思われているのかを伺う。</p> <p>(2) 若柳小学校の事件や千葉県八街市の事故のように、幼稚園児の送迎時に第三者からの被害を受ける可能性を排除するためにも、幼保施設に隣接する場所へ新たな駐車場を整備することが望ましく、そうすることで、幼稚園児の送迎が安全に行えろと考えるが、改めて市長の考えを伺う。</p>
5	14 番 佐 藤 悟	1 労働政策	<p>1 人事院勧告について</p> <p>(1) 人事院勧告の基本的認識は、どうか。</p> <p>(2) 完全実施を求めるが、どうか。</p> <p>(3) 会計年度任用職員に対し、人勸に準じて改定すべきであるが、どうか。</p> <p>(4) 栗原市のラスパイレス指数は、引き上げるべきであるが、どうか。</p> <p>(5) 会計年度任用職員に対し、勤勉手当を支給できるよう、条例制定すべきであるが、どうか。</p> <p>2 就労支援について</p> <p>(1) 令和 4 年度、令和 5 年度、市長部局、教育委員会部局、医療局部局の求人者数（うち障がい者数）、応募者数、採用者数。障がい者雇用率は、どうか。</p> <p>(2) コロナ禍であり、高校、商工団体、自治体、ハローワーク一体となった、求人・求職活動の展開、ジョブフェアの積極開催等支援策が求められるが、どうか。</p> <p>3 最低賃金について</p> <p>(1) 事業主、労働者への周知徹底、違反防止等から、広報宣伝を強化すべきであるが、どうか。</p> <p>4 ヤングケアラーについて</p> <p>(1) 栗原市は、実態をどう把握しているか。</p> <p>(2) 相談しやすい体制をどうつくっていくか。</p> <p>(3) 教育・福祉・介護・医療等、各分野の連携、支援体制をどうつくっていくか。</p> <p>(4) 子どもの人権に関わる事案であり、国として法制化を強く求めるべきであるが、どうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 教育政策	<p>1 学校の安全対策について 2023年7月6日、若柳小学校の敷地内に軽トラックで侵入し、児童4人をはねる事件が発生した。 以下、伺う。</p> <p>(1) 当日の学校、教育委員会の対応は、どうか。</p> <p>(2) 保護者への説明会は、どう行われたのか。</p> <p>(3) 不審者対応マニュアル、訓練、職員間の意識の共有等、どう行われているか。</p> <p>(4) 再発防止策は、どうか。</p> <p>2 第3期県立高校将来構想について</p> <p>(1) 市内中学校・高等学校との学習・スポーツ等交流活動は、どう行われているか。</p> <p>(2) 栗駒中学校、県立岩ヶ崎高等学校との中・高一貫校は、検討できないか。</p> <p>(3) 特色ある学校づくり、多様な人材養成など生徒に選ばれる、教育環境の整備に向け、自治体の強力な支援が必要である、どうか。</p>
		3 ジェンダー平等政策	<p>1 保育・幼児教育におけるジェンダー平等</p> <p>(1) 保育所、幼稚園の育児・教育現場における現状(実態)は、どうか。</p> <p>(2) 解消・克服に向けどう対応しているか。</p>
		4 原発政策	<p>1 トリチウム処理水海洋放出について</p> <p>(1) 風評被害は、全ての地域、産業に関わる問題である。市民生活に深刻な影響を与えると考えるが、どう受け止めているか。</p> <p>(2) 福島やその周辺自治体のみに負担を強いることのない処分方法の検討を行うよう、国・宮城県に上申すべきであるが、どうか。</p>
		5 平和政策	<p>1 「国家安全保障戦略」は、日本を再び戦争の出来る国へと進む危険な道であり、見直すべきである。岸田政権の防衛、軍備増強、憲法改悪に反対し、軍縮・平和外交の推進を求めるべきである、どうか。</p>
6	10番 高橋勝男	1 栗原市地域公共交通計画(案)について	<p>1 市は、地域公共交通の確保・維持に向け「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、令和6年度から令和10年度までの5か年計画を策定中であるが、現状と課題について伺う。</p> <p>(1) タクシー助成では、居住地区内での利用は定額500円、花山地区のデマンドは400円と各々現状の300円から引き上げられている。現行金額を維持する事は出来なかったのか伺う。</p> <p>(2) 運行開始及び終了時間は、タクシー事業者の営業時間によるとなっているが、現状はどうなっているのか。また、市内事業者の営業時間の統一はできるのか。</p> <p>(3) 栗原市内のタクシー台数は、全体で63台であり、朝の予約が混みあった場合、この台数で間に合うのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(4) タクシー助成券は、1 か月 8 枚となっているが、1 世帯ではなく 1 人、8 枚という事で良いのか。また、家族内での利用を可能とするのか。</p> <p>(5) 今回のタクシー助成制度は、タクシー1 台に対しての利用者負担 500 円という事から、複数での利用を考えた時、1 箇所からの複数乗車、複数箇所からの各々乗車及び降車する事も可能なのか。利用者負担が軽減される利用方法と呼び掛ける事も必要ではないか。</p> <p>(6) 市民説明会など今後の予定について伺う。</p> <p>(7) 広域路線及び市内連携路線区分別乗車人員数はどうなっているのか。(大人・中高校生・小学生の区分で、令和 3 年度と令和 4 年度分) また、広域路線の中で、栗原市民以外の乗車人員数は把握しているのか。大崎市や一関市に補助金の要請はしないのか。</p> <p>(8) 今回の計画策定の中で、小中学生の通学手段についても、検討されてきたのか。スクールバスの乗車基準、小学生 4 キロ以上、中学生 6 キロ以上という基準以下でも、特に路線バスが走っていない地区の保護者からは、スクールバスへの乗車要望があるが如何に。</p>
		2 栗原市全国大会等参加補助金交付要綱の見直しについて	<p>1 今年、栗駒中学校の野球部が、県大会で優勝し、8 月に開催された東日本大会に宮城県代表で出場し、栗原市から「栗原市全国大会等参加補助金」の交付を受けたと聞いているが、交付条件の一部が実態に合わない項目がある事から以下の点について伺う。</p> <p>(1) この補助金の交付実績はどうなっているのか。(過去 3 年間の実績)</p> <p>(2) 試合で勝った日の宿泊費は補助の対象で、負けた日の宿泊費は対象外になっていると聞くが、なぜそのような扱いになっているのか。負けたとしても、当日キャンセルという事で、全額のキャンセル料が発生している。全額個人負担にすることなく補助対象にすべきと考えるが如何に。</p> <p>(3) この補助金要綱では、生活保護世帯や要保護及び準要保護の児童生徒が全国大会等に参加する場合の補助金等はどうなっているのか。無いのであれば、この補助金の補助額を増額するよう要綱の見直しを求めるものであるが、市長・教育長の見解は如何に。</p>
		3 栗駒キャンプ場整備、地元愛好者の声は届いているのか	<p>1 栗駒キャンプ場建設計画は、令和 5 年度実施計画、令和 6 年度建設、令和 7 年度オープン予定で進められているが、実施計画の進捗状況はどうなっているのか。</p> <p>また、どのようなキャンプ場を考えているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>2 RV協会との連携協力協定が締結されているが、栗原市内のキャンプ愛好者やキャンピングカー所有者との連携は取れているのか。それらの声は実施計画にどう反映されているのか。</p> <p>3 オープン前に、市内の愛好者をお願いをして、デモンストレーションを行い、何が必要で、どこに問題があるのか等を確認する事も必要との声が聴かれる。開催を検討すべきと考えるがどうか。</p> <p>4 全体的なオープンまでに時間がかかるとするなら、現在ある温泉施設・トイレ・駐車場・100V電源を活用し、キャンピングカー、RV車を対象にした施設を先行オープンさせるべきと考えるが如何に。</p>
		4 放射能汚染廃棄物処理への対応は	<p>1 放射能に汚染された稲わら、牧草の処理をめぐり県内自治体では、いろいろな動きが出てきている。大崎市では、8,000 ベクレル以下になった汚染稲わらを民間事業者による県外焼却処理、美里町では放射能汚染廃棄物の保管農家へ、保管に伴う協力金の支給を決めているが、このような動きを市長はどう考えているのか。</p> <p>2 栗原市の汚染牧草の堆肥化処理に向けた建設場所の選定など、令和7年度稼働開始に変更はないのか。</p> <p>3 平成28年11月3日の第11回宮城県指定廃棄物等処理促進市町村長会議では、混焼やすき込み、堆肥化などで処理するとされた8,000ベクレル以下の廃棄物は、宮城県内で指定廃棄物を除き約36,000トンとされていたが、各自治体の処理が進む中、各自治体の保管数量は。</p> <p>4 栗原市内には、ほだ木93.5トンが保管されているがどのような保管状況なのか。また、堆肥279.5トンと、ほだ木の処理方針についても伺う。</p> <p>5 国、東京電力の責任で早期処理するよう働きかけるべきと考えるが市長の見解を求める。</p>
7	3番 佐藤久義	1 岩ヶ崎の荒廃建物の所有者に改善命令をしているが、所有者の対応は如何に	<p>1 岩ヶ崎中心部にある建物が荒れ放題になり、通行人や隣接する住民に大きな被害を与えるおそれがあったことから、令和4年12月定例議会で一般質問をおこなったが、その後市民から一日も早く安全な対策をしてほしいとの声が多く寄せられているのである。市ではその後、建物の所有者に空き家等対策特別措置法に基づいて、令和5年8月15日までの期限をつけて、適正な建物の管理を行うよう、強制力のある改善命令を出しているがその後の経過について尋ねるものである。</p> <p>また、荒廃している建物周辺を住民が往来する道路に歩道がある、マウンドになっている、歩道と車道間から雑木が生えている、二重三重の危険であるが、以下について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 今年になってから空き家に関して、地域住民から苦情や被害報告の有無について。</p> <p>(2) 栗原市が空き家対策特別措置法に基づいて、令和5年8月15日までの期限をつけて、建物の適正管理をするよう管理者に強制命令を出している。建物の所有者は期限を守っていないが、回答があったのか。あれば期限を守らない理由を聞かせて頂きたい。</p> <p>(3) 栗原市として、建物の所有者が、このまま建物を放置し続けたならば、空き家等対策特別措置法に基づいて行政代執行を行うのか尋ねるものである。</p> <p>(4) 荒廃している建物は、市民の関心が非常に高いが、行政が代執行をするとすれば、着工時期は何時になるか。また、解体費用の捻出はどこから出すか。</p> <p>(5) 県道栗駒停車場線の歩道沿いが非常に荒れ放題になっている。栗駒小学校生の通学路である。安全対策が徹底されていない。道路管理は栗原市か。宮城県か。</p> <p>(6) 市道八日町線と県道栗駒停車場線が交差している歩道がマウンド歩道になっている。歩道の間から桑の木が市道に2mほどはみだしている。車の往来と通行人が危険な状況であるが道路パトロールを行っているか。</p>
		<p>2 市道下小路線の右岸排水路の悪臭対策について</p>	<p>1 下小路線の水路の距離は、目測で400mくらいの距離があり、商店や民家が30数軒あり、左岸の水路には馬場堰から取水し町内4番丁を経由し、栗駒交番所後ろから市道、下小路線の水路に流している。この水路には常時水が腐らない程度通水しているので悪臭が少ないが、一方右岸の水路は雨水とその他排水のみが流れるため、水が腐って周辺住宅に悪臭を放出している。今年は経験したことがない真夏日が多く、降水量が少なく悪臭がでて住民からの苦情が多くある。右岸水路も以前は左岸と同じように馬場堰から取水して、町内5番丁、大手通りを経由で右岸水路に流れていたが、なぜ水が流れない設計にしたか。</p> <p>また、右岸水路の中は80cm×60cmであるが、水路の際から自然木が生え道路にはみ出している。以下質問する。</p> <p>(1) これまで住民から右岸水路の悪臭対策の要望はなかったか。あれば何時の時期か。要望者に答弁の内容は如何に。</p> <p>(2) 右岸水路の悪臭が出ている原因は、平成10年代の前半まで、我々の先人が設計した排水路の設計変更したことによってである。設計変更前に戻すべきである。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			(3) 市道下小路線の右岸に自然木が随所に生えている。木の枝が最大で 3mほど道路にはみ出している。町の中心でもあり景観が悪く交通事故が発生すれば道路管理責任者が責任を問われる。早期に伐採するべきである。
		3 旧くりでん軌道敷の管理について	1 くりでんは廃線して 15 年になるが 3、4 年前までは軌道敷地は綺麗に管理をしていたが、近年は管理が行き届いていない。以下伺う。 (1) 廃線して 15 年になる。鉄道敷地の利活用を考えているか。また線路は、栗原市の財源にもなる。このまま腐食させてしまうのか。鉄が高騰したら売り払いを考えているか。 (2) 鉄道敷地内の除草は年に何回おこない除草時期を定めているか。作業業者は入札で行っているか。また、除草作業後現地確認しているか。 (3) 以前は線路や枕木等があり、草刈りしても綺麗に除草ができないことから、トロッコを使って除草剤散布していたが、近年は草刈りしているがすぐに草が伸びるので、除草剤処理をできないか。
8	20 番 三 浦 善 浩	1 避難ノートを配布しては	1 今年も全国の各地で災害が発生している。残念ではあるが、自然災害を防ぐことは非常に難しい。常日頃から、家族や地域などで話し合いを持つことで少しでも被害を減らしていくことが重要と考える。 そこで、次の点について伺う。 (1) 家族や地域などで災害についての話し合いを持つ機会は、どの程度おこなわれているか、その現状はどうなっているのか。 (2) 災害時に取るべき行動や、必要な備蓄品、災害時の避難場所や連絡手段など家族で相談して記入したりする、(仮称) くりはら 避難ノートを作成して配布する事業を導入してはどうか。
		2 どうなった、地域通貨事業	1 地域通貨事業の導入について、次の点について伺う。 (1) 地域通貨事業の導入について、現状はどうなっているのか。 (2) 地域通貨事業の導入について、今後の見通しはどうか。 (3) 最大の関心である市民にとってのメリットは何か。
		3 どうする人口減少対策	1 日本全体が直面している課題である。本市にとっても、重要課題のひとつと思われる。 そこで、以下の点について伺う。 (1) 本市の人口、高齢化率、出生数について伺う。(合併時、10 年後、現在)

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 人口減少について、市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 人口が減っていく中で、現在と同様の行政サービスを受けるには、市民の負担は増える方向になるのか。</p> <p>(4) 市として、人口減少対策はどのようなものがあるのか。</p>
		4 地域行事の継続、継承は	<p>1 コロナ禍もしだいに落ち着いて、以前の日常を取り戻しつつある。市内の各地で、何年振りとなる地域行事も開催されている。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 祭りや地域の行事で継続した開催を断念したものはあるのか。</p> <p>(2) 地域の伝統を守っていく後継者の不足や担い手の減少など、どのようにとらえているか。</p> <p>また、継承していく手立てはあるか。</p>
9	9番 菊地広志	1 市の社会体育施設の施設環境は	<p>1 『第2次栗原市総合計画後期基本計画』には、誰もが健康で安心して暮らせる環境をつくり、市民の健康保持と体力向上を図る為、市民が自主的に行うスポーツやレクリエーションを楽しめる環境づくりを推進しますとある。</p> <p>『第2次栗原市総合計画後期基本計画』が定められた頃は考えも付かなかったような自然環境の変化が起きている。夏場の連日の猛暑もその一つだ。連日35度を超す気温で屋内体育施設の中は優に40度を超えていると聞く。9月になっても気温は高止まりで、秋だと言うのに涼しくなる気配も無い。市内各地区での運動会は高温多湿で熱中症の恐れがある為に中止や延期を余儀なくされた。そこで何点か伺う。</p> <p>(1) 市内の主な社会体育施設は何カ所ほどあり、その施設の空調設備はどの様になっているのか。</p> <p>(2) 体育館内が高温になった場合の利用基準のマニュアルや使用注意条項は存在するのか。</p> <p>(3) 第3期栗原市スポーツ推進計画の概要(案)では市民からのアンケートを基に、課題解決に向けて様々な取り組みを行うとある。気軽に安心してスポーツやレクリエーションを楽しめるように、早急に社会体育施設の充実を図らなければならないと思うが、具体的にこの先はどのようにしていくつもりなのか。</p> <p>(4) 市内の社会教育施設や図書館ではWi-Fiが使えない。若柳公民館ではパソコン教室も開催されているようだが、インターネット環境が無いために苦労していると聞く。館内で無料公衆Wi-Fiが使えれば利便性も格段に上がると思う。子供達も図書館での勉強はスマホかタブレット、ノートパソコンである。早急に整備を求めるが如何か。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 市民満足度を重視したサービス	<p>1 『第2次栗原市総合計画後期基本計画』では施策として多様な市民ニーズを把握して、満足度が高まる行政サービスの提供。市民との情報共有を高め、市民の声を市政に反映させる仕組みを充実させますとある。情報発信の強化により、行政に対する市民の関心を喚起するとともに、市民の声を反映する機会を充実しますとある。情報発信の充実、広報事業の充実、広聴事業の充実とある、また徹底したコスト削減を行い、効率的で安定した行財政運営に取り組むともある。そこで何点か伺う。</p> <p>(1) 市公式ウェブサイトの年間閲覧数は年間 338 万件との事だが、市公式ウェブサイトとはどれを指しているのか。栗原市のホームページだけを指しているのか。</p> <p>(2) また栗原市公式チャンネルには『宮城県栗原市の公式 YouTube チャンネル』もあるようだが、運用に関してのガイドラインは、栗原市公式ウェブサイト内にある「ソーシャルメディア運用方針」ページをご覧ください。とある。 この事業はどこの部署で、誰がどのような基準の中で運用しているのか。また運用に際してはどのような制約や約束事があるのか。</p> <p>(3) 市民の声を反映する機会を充実するとあるが、現状ではどのような手法で市の皆さんの声を反映させているのか。市側からの一方通行にしか感じないが、栗原市の公式ラインなどの情報システムや、書き込みによる通報システムを指しているのか。</p> <p>(4) 市民満足度を重視した、この満足度はどのようにして計るのか。</p> <p>(5) 徹底したコスト削減を行うとあるが、必要不可欠なコストはカットせずに、使うべきところには使って欲しいと思う。昼休みに全庁舎の室内灯が消されているが、それも一つの手法だと思ひ感心した。夏場の庁舎のエアコンの設定温度や、冬場の暖房の設定温度の基準と言うか、決め事はあるのか。</p>
		3 ドライブレコーダーの設置状況は	<p>1 6月定例会で、事故防止や公用車安全運行の観点から、ドライブレコーダーが装備されていない車両には、新車以外の古い車両にも装備するようお願いしたが、3ヶ月ほど経過した。そこで伺う。</p> <p>(1) 既に全て対策は完了しているか。</p> <p>(2) 安全運転講習会や、事故防止への取り組みはあったか。</p> <p>(3) 事故などが起きた場合の事故を起こした当事者への指導はどのように行っているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		4 伊豆沼・内沼の環境問題	<p>1 栗原市の観光の目玉でもある伊豆沼も環境の変化などで色々と問題を抱えているようだ。県のウェブサイトではラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼は国際的に重要な渡り鳥の飛来地であり、地域の人々の生活に密着して保全されてきたが、依然として水質改善が図られない事が問題となっているとある。環境教育や環境活動の充実など地域一体となった取り組みをより一層進める事も必要だとある。そこで何点か伺う。</p> <p>(1) 栗原市としては市内にある、伊豆沼・内沼の環境保護活動についてはどの様に考えているのか。</p> <p>(2) ラムサール条約に指定されているが、この条約は色々な規制や制約などはあるのか。</p> <p>(3) 伊豆沼・内沼の基本的な管理監督の責任などは県に有るのか、栗原市にあるのか。</p> <p>(4) 伊豆沼クリーンキャンペーンなどで清掃やゴミ拾いなどを行い環境保全に努めていると聞くが、ゴミのポイ捨てや粗大ゴミの不法投棄などは大きな問題だと思う。色々な物が捨てられているとも聞くが市では把握しているのか。伊豆沼・内沼などへの不法投棄を見たり聞いたりした場合の通報の窓口や、対応の窓口は市にはあるのか。これまで市に通報や相談などは無かったか。</p>
10	17番 石川正運	1 伊豆沼、内沼の環境整備について	<p>1 くりはらを代表する二大観光地ともいえる、伊豆沼、内沼はラムサール条約で守られているが、それゆえに、水質の悪化、湖沼に汚泥が堆積のため水量減少などが心配されている。この夏のハス祭りもきびしい状況の下で行われたが、次の点を伺う。</p> <p>(1) ハス祭りが行われた若柳会場、築館会場の各々乗船者数はいくらか。</p> <p>(2) 今年のハスの生育状況が悪く、沼のハスが消えた要因は何が考えられるのか。</p> <p>(3) R6年のハスの祭りをどうされるのか、その対策は何か。</p> <p>(4) これらの課題解決は水質向上のためや、よりよい環境対策は汚泥の除去が最大の効果が出る方策ではないか。そして、計画的に浚渫することで改善につながるのではないか。</p>
		2 持続可能な栗原をつくるために	<p>1 市長の考える、持続可能な栗原の発展のための施策、政策は何か伺う</p> <p>2 高速交通体系で優位性を誇る栗原市。これを活かす構想はどんなものか、具体的に伺う。</p> <p>3 昨年6月定例議会の一般質問で道の駅を設置すべきとの答弁では、栗原インターチェンジが設置される周辺は中核機能地域の整備基本構想で商業観光拠点としている。(仮)栗原インターチェンジ整備の進捗状況を注視して経済活性化に役立つ施策について検討していくとのことであったが、その後どういふ動きがあったのか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>4 私は改めて提案をするものである。これまで幾度も議論をしてきた道の駅設置である。東北自動車道に市内で3ヶ所目のインターチェンジ(仮称)栗原インターチェンジが建設中である。この場所は、遠く秀峰、くりこま山をながめ、車のドライバーや観光客等の休憩地、地場産品、高規格道路の開通に合わせ、海産物をも販売できる地の利を活かせることや情報の発信基地、そして災害時の一時避難場所としても使える駐車場、トイレ、水が常設されている道の駅の設置を強く望むところである。人、物が集まればお金も動く、お金の動かない所は活性化につながらない。すべてが動く所、それは道の駅のようなフリーの方々が寄るところではないか。市長の見解を伺う。</p>
1 1	4番 佐々木 嘉 郎	1 ふるさと納税について	<p>1 ふるさと納税は2008年からスタートし、2022年度に最も寄付を集めたのは宮崎県都城市の196億円、2位は北海道紋別市194億円、3位が同根室市で176億円となっていて、栗原市の地方交付税額とほぼ同じ額となっている。本市には魅力的な返礼品がないのか、ピーアールしていく方法に工夫が足りないのかを聞きたい。以下質問する。</p> <p>(1) 2008年度から2022年度までの15年間の寄付の件数及び金額はどうなっているか。</p> <p>(2) 湯浜温泉、温湯温泉、同佐藤旅館、ハイルザーム栗駒、くりこま荘は、栗駒山麓の温泉宿として、ペア宿泊券などで返礼品に加えてはどうか。</p> <p>(3) 瀬峰飛行場からヘリによる栗駒山、栗原上空のフライトなどは、他では絶対にできない返礼品になると考える。いかがか。</p> <p>(4) 市内の窯元で作られた作品は、他にはない魅力でいっぱいだ。器はいい商品、返礼品になるはずだ。座主、花法、白鷺、遊翠窯、鶴城窯などに声がけしてみてもどうか。</p> <p>(5) 米の返礼品は単なる米袋での写真でなく、おにぎりや成果をあげている例がある。写真の撮り方も工夫がいろいろではないか。</p> <p>(6) 9月に入って市のHPで、ふるさと納税の返礼品協力事業者を募集とあった。どれだけの応募があったか。</p>
		2 地域おこし協力隊について	<p>1 地域おこし協力隊制度は2009年度に隊員89人、31自治体からスタートし、2021年度には6015人、1085自治体に広がっている。任期は3年以内で、終了後も約65%の隊員が活動地や隣接地に定住している。活動地に定住した人たちは、起業や様々な仕事(たとえば農業水産業、まちづくり関連の仕事・観光業などに)に従事している。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) これまで栗原市では何人の協力隊員を採用してきたか。年度別に示せ。また、着任時の年齢はどうか。</p> <p>(2) 任期終了後の定住した人数とその職種はどうなっているのか。</p> <p>(3) 隊員になったものの、悩みを抱えていたり経験やスキルを、アイデアを活かせず行政や地域とのズレで悩んでいる者はいないのか。</p> <p>(4) 今は募集方法も多様化している。いわゆる、活力ある明るい地域づくりのために、などのうたい文句ではなく、「菓子職人」「林業に就く人」「こけし職人」「さくらんぼ農家」「漆塗り職人」「舞妓さん」などの協力隊募集などが目につく。本市でも様々な分野での後継者としての協力隊員募集も考えてみてはいかがか。</p>
		3 マイナンバーカードについて	<p>1 2021年9月にデジタル庁が発足し、ちょうど2年経つ。これまでなかなか進まなかったマイナンバーカード普及が、急速に上がってきている。</p> <p>国は2万円分のポイントをつける一方で、紙の保険証の廃止を打ち出して、実質的に取得を強制化した。筋から言えば国民が利便性を感じて納得したうえで取得率が上がっていくべきなのに、必要性が疑わしいのに多額の税金が投入されているように見える。</p> <p>(1) マイナンバーカード前身の住民基本台帳カードはどうなっているのか。</p> <p>(2) マイナンバーカードに何か問題はあるのだろうか。以上聞きたい。</p>
1 2	8番 小野 久一	1 栗駒キャンプ場構想を問う	<p>1 キャンプ場を造ろうとする目的は栗原市民の社会教育活動を主に考え、市民の利活用を推進するものか。または、市外からの利用者呼び込んで経済効果を期待することが目的なのか。市の政策の中には交流人口を増やし、移住・定住を促進する事業があるが、このキャンプ場構想はそれと結びつくものか。市長の思い、考えを伺う。</p> <p>また、市内に既存のキャンプ場はいくつあるか。その中のキャンプ場の充実を図るのではなく新たに栗駒山麓を選ばれたのはどんな理由からか。</p> <p>2 耕英地区民からの要望があったと聞くがどのような内容か。また、栗駒町時代に造られたオートキャンプ場を何らかの参考にされたか。</p> <p>3 市はキャンプ場建設、運営・経営にどう関わっていくか。直営、指定管理者制度、民営、その他様々な運営方法があると思うが、現在の考えを伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>4 市が経営に参画したり、指定管理者制度の導入で経営が赤字になった際に市が赤字補填をするようなことはすべきでないと考えているがいかがか。市は土地を提供し、民間事業者に参入してもらうことが最良と考えるがいかがか。山脈ハウスの経営が(株)ゆめぐりとなったがゆめぐり(ハイルザーム栗駒)が経営に参入することも想定されているか。また、予定地の測量は終わっているが造成費、建設費、維持費等は積算されたか。</p> <p>5 冬季間の休業を心配するが、宮城県より北にもキャンプ場はあるし、県内に70か所ほどのキャンプ場があり、冬季間はほとんど閉鎖しているということだった。県内のキャンプ場の運営形態や経営状況を把握されていると思うが、その実態を伺う。</p> <p>6 キャンピングカーが大型化して、けん引しているものもあるが、キャンプ場予定地までの県道築館栗駒公園線と市道馬場駒の湯線の道路状況で交通に支障はないか。</p> <p>7 市はキャンプ場建設に民間事業者が参入しないときは建設すべきでないと考えているがいかがか。</p>
		2 物価・エネルギー価格高騰に支援を	<p>1 物価・エネルギー価格高騰に記録的猛暑で市民の暮らしや農業者・中小業者の経営が脅かされている。これらの問題はロシアのウクライナ侵攻が最大の要因と考えるが、円安対策をしない政治的な面もあることは事実と思う。市長は市民の暮らしや農業者・中小業者経営の現状をどう捉えているか。</p> <p>市ではこれまで各種支援策を実施しているのは承知しているが更なる支援を求めるものであるが、いかがか。</p> <p>また、国に対して、暮らしや営業への支援策の充実を強く要求していくことが必要と考える。具体的にどのようなことをやられているか。</p>
		3 栗駒山麓ジオパークと観光について	<p>1 ジオパークとは一言でいうと「地球科学的意義のあるサイトや景観が保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理された1つにまとまったエリア」だということである。</p> <p>観光地ではないということである。8月24日に議員有志による、荒砥沢地すべり地内部現地見学会に参加し、ジオガイドの詳細な説明をうけ感銘した。</p> <p>(1) 市ではジオパークの認定を受けることによって、どのようなメリットがあったと考えるか。</p> <p>(2) 観光地を目指すことはジオパークの理念に反するか。反しないのであれば日本最大級の地すべり地内部現地を見学し、ジオガイドの説明を受けることは観光地としての大きな強みになると感じた。しかし道路事情が悪かった。最低限簡易舗装は必要ではないか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			(3) 市長はジオパーク認定を受けてどのようにしていこうと考えているか。ジオパークには栗駒山、世界谷地、花山湖、迫川、伊豆沼・内沼等が含まれている。どう連結させて観光や、市の活性化に結びつけていくか。
13	22番菅原勇喜	1 来年度政府予算編成と栗原市政への影響は	<p>1 一般紙9月1日によれば、「財務省は31日、国の2024年度予算編成で各省庁からの概算要求を締め切った。一般会計の要求総額は2年ぶりに過去最大を更新し、114兆円前後となったもようだ。岸田政権が力を入れる防衛力強化のために防衛費が過去最大となり、金利上昇に伴って借金に当たる国債の利払い費が膨らんだことが響いた。」「防衛費は過去最大の7兆7385億円を計上。政府は23～27年度の5年間の防衛費総額を約43兆円とし、中国や北朝鮮を念頭に抑止力を強化する方針で、23年度当初の6兆8219億円から大幅増となった。</p> <p>軍拡競争が加速する恐れもある。財源を確保するための増税は25年以降への先送りが濃厚となっている。」と報道されている。</p> <p>(1) 栗原市の総合計画・後期計画、財政計画への影響は。</p> <p>(2) 「子育て支援」等、栗原市独自施策への影響は。</p> <p>(3) 厚生労働省は7日、小学生から18歳未満への医療費助成を独自に行う自治体への「罰則」として強いてきた国民健康保険への国庫負担金の減額措置を廃止する方針を社会保障審議会の部会に示し、大筋了承された。とのことである。今後、省令が改正されるわけだが、栗原市令和4年度実績の場合、いくら減額措置が解消されるのか。</p>
		2 带状疱疹ワクチン接種助成実施時期は	<p>1 市立病院でのワクチン接種の状況を把握しているか。</p> <p>2 ワクチン接種助成への検討はどのように行われているか。</p> <p>3 早速の助成実施を求めるがどうか。</p>
		3 河川管理について	<p>1 宮城県知事に対し、「迫川水系に係る総合的な治水対策事業に関する要望」活動を行ったようだが、どのような回答を得たか。</p> <p>2 若柳夏祭り花火大会会場の河川は、一部、支障木や堆積土砂が放置されていた。全部伐採、撤去するよう県に要望しなかったのか。</p> <p>年に一度の祭りであり、この時期には支障木や堆積土砂が完全に伐採、撤去されているよう県当局に働きかけられたい。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>3 落堀川、東北本線鉄橋の下流左岸側の法面は支障木が生い茂り放置されている。右岸側の一部は法面がえぐり取られている。支障木の伐採、法面の補修、堆積土砂の撤去を求めるが、今後の対応方針は。</p> <p>4 一級河川荒川の内水路、西川排水路は登米市迫町内を流れているが、栗原市、登米市両市による「仮屋排水機場・荒川・長沼ダム対策委員会」所管の排水路である。</p> <p>十五丁排水機場上流法面のコンクリート平板が、昨年3月の地震後、一部が剥離されている状況のまま放置されている。災害復旧の対象になるのではないかと考えられるが、早急な補修を求めるがいかに対応される考えか。</p>
		4 衛生センター汚泥肥料一層の活用を	<p>1 し尿及び浄化槽汚泥の処理後の汚泥肥料は令和4年度実績で、825トンが肥料として、市内の農地などへ無料で配達したものの、それ以外の324トンは、焼却し、その焼却灰は中間再生処分を行い建設資材として再利用を図った。とのことであるが、焼却の場所、年間の焼却回数、重油の使用量、およびその金額、中間再生処分の場所、及び処分料はいくらか。</p> <p>2 汚泥肥料は肥料の名称を汚泥ケーキと称し、窒素、リン酸、カリの主要な成分の含有量も明示してある。さらには重金属についてもしっかりと検査しており、安心して使える有機肥料である。もっと、もっと農家に周知宣伝し、残りの324トン全量、農地に還元してはどうかか。</p>
14	6番 三塚 東	1 海外交流を生かした「栗原創生」を考えるべき	<p>1 平成30年10月20日から10月24日まで、私は市が主催する「台湾南投市産業交流事業」に参加した。事業の目的は、市内の産業・経済団体の皆様と台湾南投市を訪問し、米と酒を中心とした市内生産物を紹介し、物産交流の「きっかけ」づくりを行う。併せてインバウンド、アウトバウンド観光の推進につなげ、相互の交流を活性化させる。としている。私は、この事業に参加した感想をしたため報告書として提出した。そこで、4点を聞く。</p> <p>(1) 市は、東京都巣鴨地区にアンテナショップ「座・ガモール」で栗原の特産品を展示販売しているが、その効果と検証はどうか。</p> <p>(2) 台湾南投市と市の観光地の相互紹介はどうか。また、それぞれの特産品を展示、販売する相互のアンテナショップの開設は考えられないのか。</p> <p>(3) 台湾の旅行業者を対象に実施したモニターツアーの検証とともに特に指摘があったとされる道路及び駐車場の整備やトイレの設置をどう考えているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(4) 市は、インバウンドなどの国の政策や財政支援を好機と捉え、経済効果の目標値を設定するなど農・商・工を支援する施策を打ち出した独自の「栗原創生」を考えるべきと思うがどうか。</p>
		<p>2 農泊の観光戦略はどうか</p>	<p>1 国は観光立国推進基本計画で農泊による宿泊者数を2025年度までに年間延べ700万人に増やす目標を掲げ、地域活動への支援を挙げている。</p> <p>農泊は、農山漁村の活性化と農家所得の向上に加え、国内外から移住者を呼び込むきっかけにもなる。農家だけでなく、行政や関係機関などが協力し、国の支援を活用しながら積極的に取り組むべきである。そこで2点を聞く。</p> <p>(1) 市の農泊者を対象とした観光戦略はどうか。</p> <p>(2) 田園回帰の流れを止めることなく農泊を通し、栗原の魅力を発信するべきと考えるが、現状はどうか。</p>
		<p>3 総合評価方式の本格導入は万全か</p>	<p>1 市は、公共工物品確法の改正に伴い、2024年4月から予定価格5,000万円以上1億5,000万円未満の工事（解体工事を除く）で「総合評価落札方式」を本格的に導入するとしている。</p> <p>評価方法はさまざまだが、市は地元の中小業者でも対応しやすい「特別簡易型」を選択した。</p> <p>そこで5点を聞く。</p> <p>(1) 総合評価落札方式を試行的に実施した2021年度、2022年度、2023年度の8月末までの実績と評価内容および評価点数はどうだったのか。</p> <p>(2) 試行的に実施した総合評価落札方式の問題や課題はなかったのか。</p> <p>(3) 来年度から本格導入される総合評価落札方式は、総合評価を上げるため、地域貢献など期待される効果をどう考えているのか。</p> <p>(4) 1億5,000万円以上の大規模な工事は、これまで通りの一般競争入札を実施すると思うが、将来的に「特別簡易型」以外の総合入札方式の導入をどう考えているのか。</p> <p>(5) 総合評価落札方式から除かれた解体工事は、これまでどおりの一般競争入札や指名競争入札に変更はないのか。</p> <p>また、最低制限価格の算定方法はどうか見直しされたのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
15	21番 尾形勝通	1 地域再生、地域活性化施策について	<p>1 栗原市だけではなく全国の自治体が、今、人口減少をくいとめ地域の活性化をどうやって図るか悩み苦しんでいる。</p> <p>市長は本年4月3日の市長記者会見の場で「地域再生マネージャー事業」（ふるさと財団補助事業）に取り組む事を表明した。具体的な取り組みとして、観光振興で環境保全と経済の両立を図り、専門のアドバイザーの派遣を受ける。</p> <p>そこで本事業で成果を得られるよう次の細目を質問する。</p> <p>(1) アドバイザー派遣はふるさと財団の「外部専門家短期派遣事業」と思われるが、いつ、どれくらいの期間でアドバイスを受けたのか、又これから受けるのかを伺う。</p> <p>(2) 「栗駒山麓めぐみ」の商品開発と認定商品のブラッシュアップが1つの目標であると思われるが、既存のめぐみ商品は何点あるのか、その中で磨きをかけたい商品5点を伺う。</p> <p>(3) 認定商品のうち「ふるさと納税」の返礼品となっている商品があれば伺う。</p> <p>(4) 観光での体験プログラムの様なアクティビティの新規開発も目標の1つと思われるが既存の体験ツアー等のブラッシュアップも貴重な観光資源と思われる。現在力を入れようとしている体験プログラムは何か伺う。</p>
		2 線状降水帯と地域防災について	<p>1 日本は現在、どこでも線状降水帯が発生する可能性があると言われている。栗原市の今後の防災を考える時、今年の7月豪雨の教訓を生かして行かなければならないと思い、次の細目を質問したい。</p> <p>(1) 当豪雨時には、警戒レベル3高齢者避難、及び警戒レベル4避難指示を大雨の早い段階で警報し、1人の人的被害もなかった。しかし、農業用施設等の被害の規模は甚大であった。その時の市全体の被災箇所数とその後の災害復旧に要した総災害復旧事業費はいくらであったか教示願う。</p> <p>(2) 当豪雨の中でも高清水、瀬峰の小山田川水系の被害が突出していたが、その災害復旧で越流、破堤した箇所がどのように災害復旧されたのか伺う。また小山田川水系の河道内樹木の伐採、堆積土砂撤去、排水機場の修繕などの様に改善されて来たのか伺う。</p> <p>(3) 当豪雨は、令和元年台風19号時の高清水・瀬峰の降水量と同等の降雨量だったのに19号時と比べ小山田川水系の4河川では越流、破堤が少なかったのは何故か、その要因について市長の見解を伺う。</p> <p>(4) 当豪雨時は小山田川水系の地域はまさに線状降水帯の中にあっただと思われるが市長の見解を伺う。今後、栗原市がいつ何時襲われるかわからない線状降水帯に対する防災の備えや防災の行動指針について市長の見解を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		3 移住定住と農業振興について	<p>1 政府は昨年 12 月、地方活性化の切り札として「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を打ち出した。同戦略は①地方に仕事を創る。②人の流れを創る。③結婚・出産・子育ての希望をかなえる。④魅力的な地域を創る。事を柱に据えている。同戦略が実現すれば栗原市の諸課題の解決となるがそう簡単には行かない。</p> <p>魅力ある栗原市を目指して移住定住を促進し「田園」を取り戻して農業振興を図るべく、次の細目を質問する</p> <p>(1) 担い手の確保が重要であるが、これまでの認定農業者、新規就農者、集落営農組織の数値(令和 2 年度～4 年度までの 3 か年)を伺う。</p> <p>(2) 全国の自治体の多くは、農的関係人口を増やして移住定住に結び付けたいと多くのメニューとプロジェクトに奔走しているが本市の農的関係人口をどのように捉えているか市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 本市では 6 次産業化の推進施策を以前から行って来たが地域特有の農産物の商品化と販売戦略の構築は永年の農政の課題であると思われる。6 次産業育成塾も開催しているがその開催状況及び参加人数(令和 2 年度～4 年度の 3 か年)と 6 次産業化にこぎつけた農業者の数と商品開発の数について事例をもって伺う。</p> <p>(4) 移住定住推進と農林振興は表裏一体の関係と思われるが企画部の定住戦略室と農林振興部の農業政策課を合体したような部署またはプロジェクトを創設して事業を進める事を提案するがいかかがか市長の見解を伺う。</p>
1 6	23 番 濁 沼 一孝	1 「くらしたい栗原」を目指して	<p>1 栗原市は合併して今年で 19 年目である。来年は合併 20 年を迎える。この 19 年間、行政、議会、市民はくらしたい栗原を目指し、各種事業や、若者定住支援や子育て世帯生活支援、学校給食費無償化等、各種事業を推進してきたところである。しかし、少子高齢化で人口減少が止まらない現状にある。今後の人口増の政策について市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 現在企業では大規模な工業団地を必要としている。市においても、築館インター工業団地や若柳金成インター工業団地の余剰地では大企業の入る余地はない。次期、工業団地の整備を進めるべきと思うが、市長の見解を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 平成 17 年合併当時の栗原市長はクラスターの街づくりを構造していたと思っている。今後も一局集中でなく、栗原市をいくつかに分けた街づくりを推進していると思うが、強力に推進して頂きたいが市長の見解を伺う。</p> <p>(3) クラスターの街を造るには地域の人口増が必要である。現在、不動産業の会社等が建設販売をしているが、これを行政が住宅地の整備をし、市民に販売する事を提案するが市長の見解を伺う。</p> <p>(4) 栗原市内では、国営事業、県営事業で基盤整備事業を行っているが、特に中山間地は昭和年代から平成初期に整備された農地が多い。そのため、用排水路等の劣化が進み、稲作以外の作物を作付けするのが困難な状況にある。第 2 次の基盤整備に着手すべきと思うが市長の見解を伺う。</p> <p>(5) 畜産業は稲作に次ぐ栗原市の大きな産業である。今、国、内外の事情で国民生活、国内事情が大変である。特に、畜産業は危機的状況である。各種補助事業が実施されているが、特に濃厚飼料の高騰等で大変である。さらなる助成が必要と思うが、市長の見解を伺う。</p>
		2 栗原市集会施設建設等補助金交付要綱について	<p>1 この要綱は自治会が地域住民の地域活動の拠点とする、集会施設を整備するために定めたものである。その交付要綱について何点か市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 交付要綱第 5 条補助対象外の経費として、(1)用地の取得及び造成に係る費用とあるが、土地の所有者から無償譲渡を受ける場合、市に対応してもらえるか伺う。</p> <p>(2) 第 5 条補助対象外の経費として(3)集会所施設整備に係る一般事務費等の経費とあるが、多くの支出が見込まれるようだが、建設規模に応じて、助成を受ける事ができないか伺う。</p> <p>(3) 第 5 条第 2 項で、市長が必要と認める経費を補助対象経費とすることができるかとあるが、見解を伺う。</p>
		3 先に一般質問した内容のその後について	<p>1 市道有賀沢線の整備で受益者から再三、その後の事業経過について質問を受けるが、その後どうなっているか。この事業は採択された事業なので、必ず実施されたいと思うが伺う。</p> <p>2 栗駒ダム左岸の道路整備計画について、また、沼ヶ森林道の土砂流出の整備計画についても見解を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
17	13番 高橋 将	1 郷土芸能の継承に支援を求める	<p>1 地域の郷土芸能は、その地域固有の文化や歴史、価値観、社会規範などを象徴的に表現するもので、地域のアイデンティティと深く結びついている。</p> <p>現状の栗原を見た時、地域の高齢化と人口減は、郷土芸能の継承にとって大きな課題となっている。これらの課題を克服し、郷土芸能の継続を図るため、市として継承を支援する取り組みが必要である。地域社会の共同体の維持、そして我々の文化的遺産を保護し、次世代へ引き継ぐために必要な、市の取り組みについて質問する。</p> <p>(1) 市内の民俗文化団体などの活動状況は把握しているか。</p> <p>(2) 今後の継承に必要な取り組みと支援策の考えはあるか。</p> <p>(3) 学校教育に郷土芸能を積極的に取り入れ、子どもたちの成長と共に、地域社会との結びつきを強め、シビックプライドのじょうせい醸成にも活用するのはどうか。</p>
		2 火葬場利用の広域化を推進せよ	<p>1 栗原市内にある火葬場を市民が利用する際、栗原市民であれば通常料金が適用され、他の自治体の火葬場を利用すると割増し料金になるという状況にあり、逆に、他の自治体の市民が栗原の火葬場を利用するときも同様の状況にある。</p> <p>これを解消するため、近隣の自治体間で火葬場利用料金に関する広域連携を推進することを提言する。具体的には火葬場を利用した際に割引が適用される制度を、近隣の自治体でも相互に可能とすることで、お互いの市民負担の均一化が図れると考える。以下質問する。</p> <p>(1) 直近3か年における、近隣自治体市民が栗原市の火葬場を利用した件数と、栗原市民が近隣自治体の火葬場を利用した件数を示せ。</p> <p>(2) 火葬場利用料負担の安定化に向けて、近隣自治体と協議してはどうか。</p>
		3 不妊治療の混合診療に支援を求める	<p>1 不妊治療の保険適用範囲の拡大から1年が経ち、多くの人々が保険適用で不妊治療を受けることが可能になった。保険適用により不妊治療を行いやすい環境整備が進むと思われたが、新たな課題も生じている。特に今回影響を受けたのは、保険適用前から混合診療を受け、従前の自治体独自の不妊治療支援事業を利用していた患者にとっては負担が増える結果となっている。これを受け、一部の自治体では混合診療に対する支援策を導入し始めており、女性の出産年齢が上昇している現代において、少子化対策として必要な施策となっている。</p> <p>栗原市では「幸せを運ぶこうのとり応援事業」を通じて不妊治療の支援が行われているが、現状では保険診療に限定されている。以下質問する。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 不安なく不妊治療を受けるための環境整備を進めるため、先進医療など混合診療に対する支援を追加し、一人でも多くの市民が子どもを授けられるように「幸せを運ぶこうのとり応援事業」の拡充を求めるが市長の考えを聞く。</p>
		<p>4 子どもの体験格差の是正に向けた施策を求める</p>	<p>1 栗原の子どもの健やかな成長のためには、豊かな心を育むことが不可欠であり、そのために、社会体験活動や自然体験活動等も含め児童生徒の多様な体験活動の機会を充実することが重要である。以上のことから体験活動の充実に向けた施策を求めるものである。以下質問する。</p> <p>(1) 子どもの学校外での体験活動の状況はどうか。</p> <p>(2) 現在の栗原は子どもの体験活動が充実しているか。</p> <p>(3) 体験活動の活発化に向けた考えはあるか。</p> <p>(4) 子どもの体験活動に対する支援金制度を導入することで、子育て世帯の支援と、子どもの可能性や特性を導き出すことができる。さらに、体験活動が利用されることで、現在は栗原にない種類のスポーツや文化活動なども、子どもだけでない市民全体の体験機会の創出にも寄与すると考えることから、体験活動に対する支援金制度の導入を求めるがどうか。</p>
		<p>5 有機農業推進に具体的な数値目標を定め行動せよ</p>	<p>1 国では令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに目指す姿として、有機農業ではオーガニック市場を拡大しつつ、有機農業の取り組み面積の割合を25パーセント（100万ヘクタール）に拡大することを目指す方針を打ち出している。対して、令和4年3月に「栗原市有機農業推進計画」が策定されたが、具体的な目標の数値設定が見えてこない。以下質問する。</p> <p>(1) 栗原市で目標とする面積、必要な農業者数、力点をおく作物選定、それをもとに年次計画などの目標数値を決定し、有機農業の具体的な実施計画を策定し推進に取り組んでどうか市長の考えを聞く。</p>
		<p>6 若柳公民館の設備について</p>	<p>1 先日、市民の方から新しく建設された若柳公民館の調理実習室を利用した際に、使用していたらブレーカーが落ちたという相談を受けた。予約の受付の際に窓口の方から、ブレーカーが落ちるから気をつけて使ってという注意を受けたことを思い出し合点がいったという。</p> <p>(1) 電源供給不足していることは把握されているか。</p> <p>(2) 設置されている設備はすべて利用できるような電源確保は基本的にされていないのか。</p> <p>(3) 全台が存分に利用できないとすると、装備品が過剰に設置されているということになると考えるがどう捉えているか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
18	15番 佐藤文男	1 マイナンバーカードをめぐる問題について	<p>1 全国各自治体は政府の方針に従い、マイナンバーカードの普及促進に努めてきたが、全国的にマイナンバーカードにひも付けされる健康保険証の「マイナ保険証」に別人の情報が誤って登録されていたことや、公務員らの年金記録とのひも付けミスなど、マイナンバーカードに関する問題が噴出している。</p> <p>栗原市においては問題なく進められているのか、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 政府は来年の秋には現在の健康保険証を廃止する方針を決定しているが、高齢による認知症の方、意思決定ができない重度障がい者など、マイナンバーカード、又は、資格確認書を申請できない方に対する対応はどうか。</p> <p>(2) 国保加入者であってマイナ保険証を持たない人でも、これまで通りの窓口負担で、医療が受けられるのか。</p> <p>(3) 現在、市内の医療機関で、顔認証の端末などのマイナ保険証をどの程度利用されているか。</p> <p>(4) 保険証に有効期限があるが、来年の秋には現在の保険証が廃止されるが、栗原市の国民健康保険証が更新される場合の有効期限はどうなるのか。</p> <p>(5) 現在の健康保険証の存続を国に求めるべきと思うがどうか。</p>
		2 市道姫松金田線の路盤改良を	<p>1 旧姫松小学校から金田川北地区に通ずる市道姫松金田線は以前の一般質問で指摘した通り、道路両側が沈下しており、通行する車は、対向車が無い時は常に中央をまたいで走行しており、安全な走行に支障がある。道路の損傷はさらに進み早期の路盤改良をすべきと思うがどうか。</p>

※ この要旨は、各議員から提出された通告書の要点をまとめたものです。